千浜っ子

令和７年度
学校だより
12 月号

成行の昔～千浜小学区の「残しておきたい話」「伝えたい話」(昭和 57 年募集)より～

芝原　　※校長：（当時の雰囲気を壊さないよう原文のまま掲載しています）

家の前の空き地を、芝が生えているためか「芝原（しばら）」と言っている。古い人達はここを「ごぐら」（御倉と書くか、穀倉とかくのか私にはわからない）と呼んでいた。

昔、お殿様に税金代わりのお米を納める出張所みたいなものがあったとみえる。

もう、何年位前だったろうか此所には煮干小屋があって　海でとれたシラスを煮て芝原一杯むしろを敷きつめて干してあった。真白い煮干にさんさんと太陽がかがやき乾きすぎると目方も減り、品物も良くないのか中傳の女の人達も交り、姉さんかぶりの手拭にタスキをかけ忙しそうに干し返し、寄せたシラスにごみが入っていてはいけないので手廻しの扇風機（羽型）であおっている風景は凪の日によく見かけたがもうそれは遠い記憶となってしまった。

太平洋戦争が終わってもうみんなへとへとになり　食料もとぼしく買いたくてもお店にも何もなかった。でも私達は生きなければ、立ち上がらなければと村の人達が一丸となって海辺であるのを幸いと古老の人達に教わって塩取り（塩作り）を始めた。

私たちの七班の塩作りの大きな土のへっついは家のかいど（出先）に大きな山桃の木がありその陰なら涼しいと二つこしらえた。芝原には六班　十一班の人達等のが作ってあった。

天気の良い日　皆でお弁当を持って海へ行き海水を桶に汲んでは砂の上にひしゃくでばらまく、それを度々繰り返して、砂が乾いたら少しずつ砂を寄せ、大きなこし桶の中に入れ、また上から海水を入れてこす、下に出た海水を　まためいめいに分けて、かついで塩釜の所まで帰って来るのであるが当時は高い砂丘がいくつもあって、それをじょうずに上ったり下がったり重くてえらくてハアーハアー息をはずませて、でも皆いっしょうけんめいだった。

その水をかきまわしながら煮つめるとお塩ができるのです。

今でも、家にお塩をかきまわした大きなへらみたいなのがたしかあったと思う。

お醤油もないので、海でしわめを拾い煮たつゆは茶色だったのでお塩を入れてお醤油代りにしたり、砂糖きびを作り輪切りにしてお砂糖代りとしたこともある。

その私たちのなんぎして登った砂丘も時代が変って前の開墾の田んぼや学校の裏、糸繰り山の方の田んぼまでダンプで運び埋めてしまったのでなくなってしまった。砂を運んだ後の砂丘へ　また　村の人達で一本づつ松の苗を植え現在は立派な防風林となった。（子供の日学校でよく凧をあげる所）

火をくべるにしても、今はガスや電気を使うので、もや（薪）はいらなくなったが以前は　ご山と言って区長さんがふれを出すと都合のよい人達が集まって海の方の山へ松葉をかきにいったものです。皆で呼び合ってお弁当を持ち　当時若妻だった私たちはせめてものおしゃれと真新しい手拭をかぶりよそゆき？のピンクの腰巻・タスキもふだん使わないよそゆきをかけてお話しながらお麦ご飯のお弁当を食べる時が年に二回位の嫁たちのいこいの場所でもありました。

小学校の前の正門の近くにある山桃の木は随分古い木らしく古老の人たちもなつかしがって居ります。

幾世霜卒業の児等　見送りぬ　　とし

の桃の木だったのでしょう。この桃の木の東側は亡くなったおばあちゃん達の学校へ行く頃は田んぼだった。

川もうぶ続きのせまいものでした。廻りは茶畑が多く戦争中　食料増産の掛声で、今のお茶工場附近一帯に殿粉工場をつくりました。

当時は、機械もないので　村の人達が交替でリアカー　モッコ等でかついで地所(じしょ)を作りました。女の人達は　トロッコを三人位で押しましたが上りの時は重たくて重たくてとても大変でした。

モッコと言えば、国安川の堤防の時も班の人達で、石を探してはかついで行った事も重たくて本当に大変でした。

次に、海の話をしましょう。

魚が見えて　網掛けをする時や　嵐が来て船を上げる時等、その舟によって皆を集める呼び声がありました。

成行には　前船　西村船　かめ船とあったそうで「ホーイ」と呼ぶ舟、「ホホーイ」または「ホホホイ・ホホホイ」と呼ぶ呼び方で知らせ合ったようです。

自転車または歩きながら南の方から北のたんぼの方までよくとおる声で「ホホオーイ・ホホオーイ」等とよく赤堀清治さんが呼んで行きました。

郷愁を誘うような清治さんのあの声をもう一度聞きたいものです。女でも亡った赤堀春雄さんのおばあさんがよくとおる声で舟宿のお日侍の時など呼び歩いたそうです。

今、町営住宅のある所はお墓があったり、うっそうとした恐ろしい様な所でした。小学校の前にあった正門の西側にも墓地があり　その西に郵便局と並んで役場がありました。郵便局はそれから昭文堂へ行き　また元の所へもどりましたが現在は小学校の西側へと移りました。役場もそれから今の農協の東側の建物へ移りましたが大浜町になって三俣へ変っていったのです。

また、化成ヘキスト工場の西の方に村のひ病院がありました。戦後伝染病が発生して大勢の人たちがここへ入ったこともありました。

毎年、田植えがすむと村でさなぶりを知らせる鐘がなり　その日はお米のご飯をたいて神様仏様にあげたものでした。秋は、お月見でおへそのあるおだんごやお赤飯をたき家族みんなお風呂へ入ってからお月様を眺めなが

らお宮様、お地蔵様へお参りにいきひの木の葉の上へ供えて来たものでした。

もうこの風景も見られないがこうしたお月見だけは家族団らんで続けたいものですね。

また、今のバイパス（国道百五十号線）を軽便鉄道が通っていました。走るのも遅く、力がなく横須賀へ遠足に行く時坂道だとよけい遅く男生徒たちが飛び降りてみんなで後押しをしたことも現在の交通時代から見るとマンガのような風景でした。　　千浜西　水島　（当時六十一才）

春花壇の仮植を行いました

11月20日（木）に、本校花壇に植える花の苗の仮植を行いました。地域の皆様が御参加くださり、パンジーやビオラ、ネモフィラなどの苗をとても丁寧に仮植してくださいました。ありがとうございました。本校４年生の児童も一緒に仮植を行いました。地域の皆様に仮植の仕方を教えていただきながら活動することができ、子どもたちにとって貴重な経験になりました。

本校の花壇ですが、先日お伝えしたとおり、FBC コンクールで「国土交通大臣賞」を受賞し、11 月 19 日（水）には代表の児童と本校職員で、静岡県庁で行われた表彰式に出席をしました。千浜小の長い伝統となっている花壇を、これからも子どもたち、地域の皆様と一緒に大切にしていきたいと思います。

青潮活動（花壇活動）もよくがんばっています

各学年の青潮活動も子供たちがよくがんばっています。異学年の子ども同士で、互いに協力し合って取り組んでいます。子どもたちが助け合い、協力し合おうとする姿勢、一生懸命に活動に取り組む姿が立派です。

１・６年

２・５年

３・４年